

令和 5 年 6 月 14 日現在

機関番号：34507

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2016～2022

課題番号：16K01068

研究課題名（和文）学校カリキュラムマネジメント推進のための地域教育行政による支援モデルの構築

研究課題名（英文）Establishment of support model by local educational administration to promote school curriculum management.

研究代表者

村川 雅弘（Murakawa, Masahiro）

甲南女子大学・人間科学部・教授

研究者番号：50167681

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,500,000円

研究成果の概要（和文）：学校のカリキュラム・マネジメント推進のためには、地方教育行政によるシステム構築や集合研修による支援が求められる。本研究を通して、カリキュラム・マネジメントの実施状況を自己診断するチェックリストの作成や各学校の取組を顕在化するためのカリキュラム・マップやグランドデザインの書式統一、理解の共有化のための管理職の合同研修、学習習慣や学び方の育成と定着を図るためのスタンダードの開発など、県や市、中学校区の各レベルにおいて、様々なシステムや支援が開発・実施され、有効に機能していることが明らかになった。また、学校のカリキュラム・マネジメントへの児童生徒の参画も新たな支援のあり方として見出すことができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

新学習指導要領では、先行き不透明な次代を生き抜くと共に新たなものを協働的に創造する資質・能力の育成、そのための主体的・対話的で深い学びによる授業改善、各学校のカリキュラム・マネジメント実現の重要性が叫ばれている。一方で、カリキュラム・マネジメントに対する理解や実施において、学校間格差が懸念される。本研究では、県や市及び中学校区の様々なレベルでの学校のカリキュラム・マネジメント推進のための支援システムの構築や集合研修の工夫、並びに児童生徒による参画の具体事例の開発や収集を行った。研究成果を教育委員会や学校現場に発信することで、各学校のカリキュラム・マネジメントの充実に寄与することができている。

研究成果の概要（英文）：In order to promote curriculum management in schools, support is required through the establishment of systems by local educational administration and group training. Through this study, various systems and support were developed, implemented and effectively functioned at each level of prefectures, cities, and junior high school districts, including the creation of checklists for self-assessments of the implementation status of curriculum management, the standardization of curriculum maps and grand design formats in order to reveal the efforts of each school, joint training for managers to share understanding, and the development of standards to foster and firmly establish learning habits and learning methods. Participation of students in school curriculum management was also found as a new form of support.

研究分野：カリキュラム研究

キーワード：カリキュラム・マネジメント 地方教育行政 新学習指導要領 資質・能力の育成 ワークショップ型研修

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

## 1. 研究開始当初の背景

申請当時（2015年）、学習指導要領の改訂が進められる中、先行き不透明な次代を生き抜くと共に地域活性化に寄与できる人材の育成が提言され、困難な問題に立ち向かい協働的に問題解決を図るための資質・能力の育成のための主体的・対話的で深い学びによる授業改善が小・中・高等学校等の教育課程全体に求められ、各学校のカリキュラム・マネジメント実現の重要性が叫ばれている一方で、学校間の新たな取組に関する格差が懸念されていた。

## 2. 研究の目的

本研究では、新学習指導要領で求められている資質・能力の育成に向けた、主体的・対話的で深い学び（申請時は、「アクティブ・ラーニング」）を中心とした教科等の授業改善及び社会に開かれた教育課程の要の時間としての総合的な学習の時間の充実のために、例えば、義務教育段階においても各学校が小中9年間を見据えたカリキュラム・マネジメントを推進していく上で、各地域の教育行政がどのような共通のシステムを開発・活用し、どのような集合研修を計画・実施すべきなのか、学校のカリキュラム・マネジメント支援のモデルを構築することを目的とした。

## 3. 研究の方法

上記の研究目的を果たすために、以下の3つの研究を展開した。

1) 先行き不透明な時代を生き抜き地域を担う資質・能力を備えた人材育成のための授業開発及びその効果の検証に関して、主に、高知県の「探究的な授業づくりのための教育課程研究実践事業」（2015～2017年度）及び広島県の「学びの変革アクションプラン」（2015～2017年度）の研究指定校を対象に実施した。

2) 学校のカリキュラム・マネジメントを支援するための集合研修の開発と活用の先進事例の収集・整理に関しては、独立行政法人教員研修センター（その後、「独立行政法人教職員支援機構」に名称変更）の「カリキュラム・マネジメント指導者養成研修」や各地の教育センター（石川県や滋賀県、広島県、鳥取県、仙台市、柏市など）の先進的な事例を中心に訪問調査（コロナ期はオンライン調査）及び校長や副校長・教頭、教務主任など職階や経験年数に応じたカリキュラム・マネジメント研修の計画を開発・実施・評価を担当指導主事と行い、その知見を整理した。

3) 学校のカリキュラム・マネジメントを支援する地方教育行政のシステムの開発と活用の先進事例の収集・整理及び、その知見を踏まえた支援モデルの構築に関しては、先進地域である新潟県上越市や愛知県知多地方、大分県佐伯市などを訪問調査し、知見を整理した。

当初は、4年間の予定であったが、2020年2月以降の新型コロナウイルス感染症拡大を受けて、研究協力校等への調査が困難になったことと、各学校の「感染症対策と学力保障の両立」を目指すカリキュラム・マネジメントの必要性が高まったことにより、この視点も加味した研究を行うこととなり、延長申請により、計7年間の研究期間を要することとなった。

## 4. 研究成果

3「研究の方法」で示した学校のカリキュラム・マネジメントを推進するための、1)授業開発や、2)研修開発、3)地方教育行政の支援モデルの構築に加え、4)学校のカリキュラム・マネジメントの側面「PDCAサイクルの確立」にかかわる児童生徒の参加・参画も視野に入れて研究を進めた。4)の研究成果も合わせて報告する。

### 1) 先行き不透明な時代を生き抜き地域を担う資質・能力を備えた人材育成のための授業開発

①2016・2017年度は、教育課程全体を通してアクティブ・ラーニング（申請後に「主体的・対話的で深い学び」に）をどう展開するのか、社会に開かれた教育課程をどう編成し実施していくのか、子どもや地域の実態を踏まえながらカリキュラム・マネジメントを行う上での要件や手続き及びその成果を明らかにするために、教科学力の検証のための事前・事後調査として全国学力・学習状況調査ほかの各種学力調査を活用し、また、主に総合的な学習の時間で培う汎用的な能力の検証のための事前調査には日本生活科・総合的な学習教育学会が2013年に作成した調査<sup>1)</sup>及び全国学力・学習状況調査の関連項目を活用した。研究協力対象として、高知県の「探究的な授業づくりのための教育課程研究実践事業」の指定校7校の内の3校（四万十市立具同小学校及び同市立中村西中学校、本山町立嶺北中学校）に対して授業開発と成果検証に関する継続調査を行った<sup>2)3)</sup>。

②大分県佐伯市においては、小中高12年間を通して地域創生のための資質・能力の育成を目指した総合的な学習を核としたカリキュラム・マネジメントを渡町台小学校及び鶴谷中学校、佐伯鶴城高等学校と開発・実施した<sup>4)5)</sup>。

③2018・2019年度は、高知県及び広島県の各事業が終了したが、一部の研究指定校には継続的にかかわると共に、2年間の知見である、1)教育課程全体を踏まえての主体的・対話的で深い学びの授業づくり、2)総合的な学習の時間を核とした子どもや地域の実態を踏まえたカリキュラム・マネジメント実現の手立て・手順、3)全国学力・学習状況調査及び総合的な学力調査による教育効果測定、を他の研究校にも適応しその一般化に努めた<sup>6)</sup>。

④また、文部科学省「これからの時代に求められる資質・能力を育むためのカリキュラム・マネジメントの在り方に関する調査研究」（2019・2020年度）に関する指定校及びこの期間において研究代表者及び研究分担者が研究指導を行った小・中・高等学校を対象とした継続的な訪問調査や資料提供を通して、特

に、新型コロナウイルス感染拡大の中での「感染対策」とその状況下における主体的・対話的で深い学びの授業開発、総合的な学習の時間や修学旅行、体育祭等の体験的な活動を含めた「学びの保障」の両立にかかわるカリキュラム・マネジメントの在り方、コロナ禍対応と GIGA スクール構想のカリキュラム・マネジメントにおける地方教育行政と学校との望ましい関係を明らかにした。2019 年度までのカリキュラム・マネジメントに関する研究を通して得た知識や経験がコロナ禍という不測の事態の中での「感染対策」と「学びの保障」の両立を推進する上で有効に働いていることが事例分析を通して明らかになったと共に、コロナ禍対応に関しても地方教育行政レベルの学校カリキュラム・マネジメントへの支援の重要性も改めて明確になった<sup>78)</sup>。

with コロナ時代の学校のカリキュラム・マネジメントのモデルを提案する<sup>9)</sup>と共に、大阪府内に調査を行い、教育委員会と学校の指導と裁量の関係及び側面「人的・物的資源活用」に関する支援の在り方等を類型化した<sup>10)</sup>。

④授業開発の基礎的な研究として、各教科の教科書会社が提供している年間指導計画作成資料を対象に「比較する」思考スキルが指導される学習場面を教科ごとに抽出し、「比較する」の体系についての教科ごとの特徴を明らかにした<sup>11)</sup>。また、GIGA スクール構想の実現に特化したことではあるが、カリキュラム・マネジメントの側面「教科等横断的教育課程編成」の基礎的な研究として学習指導要領における情報活用能力の取扱いに関する分析・整理を行い、各教科等の特徴とその関連性を明らかにした<sup>12)</sup>。

## 2) 学校のカリキュラム・マネジメントを支援するための集合研修の開発と活用の先進事例の収集・整理

①2016～2019 年度にかけて、カリキュラム・マネジメントの考え方を学校現場に浸透させていくために、地方教育行政による集合研修の開発のための資料収集を行った。独立行政法人教員研修センター（調査当時）の「カリキュラム・マネジメント指導者養成研修」や各地の教育センター（石川県や滋賀県、広島県、鳥取県、仙台市、柏市など）の先進的な事例、校長や副校長・教頭、教務主任、10 年次研修など職階や経験年数に応じた研修計画の開発・実施・評価を中心に訪問調査を行った。そして、2019・2010 年度は、学校のカリキュラム・マネジメントの推進を充実させるために開発してきた集合研修プログラムを、他の地域の研修において実施し、研究成果を還元するとともに一般化を図った。また、独立行政法人教職員支援機構や石川県や沖縄県、柏市、尾道市等の教育委員会や教育センターと企画・実施・評価にかかわり、研修案や映像記録、受講者アンケート等を基にモデルプランの作成を進めた。2021 度は、カリキュラム・マネジメント理解及び学校のカリキュラム・マネジメントを支援するための集合研修（オンライン型を含め）に関しても、青森県や富山県、福井県、兵庫県、京都市、尾道市等の教育委員会や教育センターと共同的に企画・実施・評価を行った研修モデルプランの一般化を進めた。

②高知県においては、2017 年度に県下の指導主事に対して、県の授業改善の基本的な方向性を明確にすると共に、その考え方を学校現場に浸透させていくための具体的な手立てを開発・共有するワークショップを行った。

③大分県佐伯市においては、2016・2017 年度に、幼小中高 13 年間を通して育む資質・能力を明確化した上で、各学校の総合的な学習の時間の年間指導計画の見直し・改善を図るワークショップを企画・提案した<sup>13)</sup>。

## 3) 学校のカリキュラム・マネジメントを支援するシステムの開発と活用の先進事例の収集・整理と地方教育行政による支援モデルの構築

各学校がカリキュラム・マネジメントを推進する上で、各地方教育行政の支援システムの開発と活用が重要である。訪問調査及びオンライン調査により先進事例の収集・整理を行い、その知見を踏まえて支援モデルの構築を行った。支援モデルを考える上で、県、市、中学校区のレベルで事例を収集した。

### ①県レベル

新潟県立教育センターは学習指導要領のカリキュラム・マネジメントの 3 側面を踏まえた小中高用のチェックリスト（カリキュラム・マネジメント新潟モデル「CMN」）を作成し、各校がそれを活用することで、カリキュラム・マネジメントの充実を図っている<sup>14)</sup>。高知県は 2015 年度から 3 年間行った「探究的な授業づくりのための教育課程研究実践事業」を経て、「能力ベースの探究的な授業づくり」を核にしたカリキュラム・マネジメントを県教育委員会主導で進めてきた<sup>15)</sup>。両者は、県レベルのカリキュラム・マネジメント実践としては典型的な事例である。

### ②市レベル

上越市は、各教科等の単元・教材を一覧した「視覚的カリキュラム表」を元に、グランドデザインで設定した重点課題（キャリア教育や人権教育など）を意識した授業づくりを行っている。このカリキュラム表は保護者や地域の人にも公開されており、コミュニティ・スクールの推進にも有効に働いている<sup>16)</sup>。愛知県知多地方は、地域カリキュラム「知多地方教育計画案（通称、「知多カリ」）」を作成し、110 校以上の小・中学校の教員が活用している。60 年以上にわたり、教科書採択に合わせて改訂を繰り返している<sup>17)</sup>。京都市教育委員会は、リーフレット「カリマネ」を作成した上で、カリキュラム・マネジメントに関して、校長と教務主任、研究主任の 3 者合同研修を行った。学校教育課と総合教育センターで合同研修会を重ねて方向性を確認した上で、各教科等のエキスパートである指導主事が各校のカリキュラム・マネジメントの推進に関する助言を行っている<sup>18)</sup>。広島県福山市教育委員会は、2016 年度より「福山 100NEN 教育」の下、市独自の「21 世紀型“スキル&倫理観”」を掲げ、その実現のために全ての学校が「カリキュラム・マップ」を作成・活用している<sup>19)</sup>。

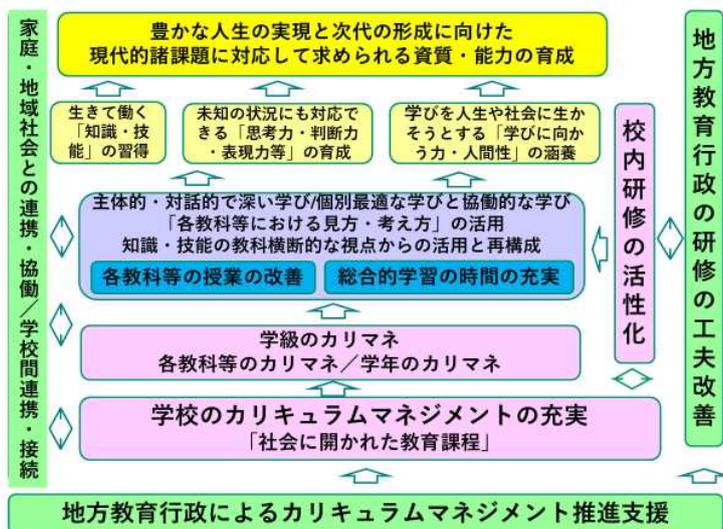
大分県佐伯市は、「ふるさと創生事業」を掲げ、幼稚園から高等学校までの13年間で育成する資質・能力の系統性を図り、生活科と総合的な学習/探究の時間を核にした教育活動を展開している<sup>20)</sup>。東京都目黒区は、「グランドデザインの書式統一」による学校の特色の明確化、「40分授業午前5時間制」におけるICT活用等による授業の改善・工夫と個別指導や校内研修、働き方改革への時間の有効活用等を実現している<sup>21)22)</sup>。

### ③中学校区レベル

青森市三内中学校区は、2小学校1中学校の3校に3つの専門部（学習指導部、生徒指導部、特別活動部）を設置し、学習習慣や学び方の育成と定着、自己有用感を高める振り返り活動や各種委員会の充実、人間関係づくりを目指す特別活動を推進している<sup>23)</sup>。尾道市向島中学校区は、小学校3校と中学校1校の校長による「ブロック校長会」の主導により、中学校区で育てたい資質・能力を設定した上で、生活の基盤を整備する「心のトク徳プロジェクト」と学びの基盤を整備する「学びのプロジェクト」を進め、4校共通9年間のカリキュラム・マネジメントを推進している。その後、この取組は全市的に展開されている<sup>24)</sup>

調査対象となった県及び市の地方教育行政並びに中学校区の共通点は、各学校のカリキュラム・マネジメント推進への支援の考え方や具体的な取組において、揃えるべきことは共通理解を図った上で徹底して取り組み、その上で各学校が特性や実態に応じて豊かに展開していくことを示している。取組のレベルは異なるが、地方教育行政による学校のカリキュラム・マネジメント推進への支援モデルとして、他地域や他の学校への一般化が可能である。

先行き不透明な次代を生き抜くための資質・能力を育むための授業づくりは個々の教員の力量や努力ではなしえない。どんな力を付けるのか、どのような教育活動を展開するのか、目標とそれを実現するための方法のベクトルを揃え、ぶれなく進め、その上で、各教員の特性や専門性が発揮される。学校のカリキュラム・マネジメントが充実することにより、各教科や各学年のカリキュラム・マネジメント及び学級のカリキュラム・マネジメントが機能するが、各校のカリキュラム・マネジメントがある一定レベルで充実していくためには、集合研修の工夫改善も含めた地方教育行政によるカリキュラム・マネジメント支援は不可欠である<sup>25)</sup>。



### 4) 学校カリキュラム・マネジメントの側面「PDCAサイクルの確立」にかかわる児童生徒の参加・参画

2021年度から2022年度にかけて、学校カリキュラム・マネジメントの側面「PDCAサイクルの確立」にかかわる児童生徒の参加・参画に関しては以下の3つの事例を開発・実施及び収集できた。

岡山県真庭市立遷喬小学校はカリキュラム・マネジメントの3側面のii「PDCAサイクルの確立」のPの特に各教科等の学習の基盤となる言語活動の充実に関わる児童による主体的な活動が極めて有効であった<sup>26)27)28)</sup>。熊本大学附属中学校では、カリキュラム・マネジメントの3側面のii「PDCAサイクルの確立」のCAの特に授業研究における生徒の参画（授業参観及び事後検討会）の意義と効果が明らかになった<sup>29)30)</sup>。東京都八丈町立富士中学校では、カリキュラム・マネジメントの3側面のii「PDCAサイクルの確立」のCAの特に、教育課程全体や特別活動、総合的な学習の時間の年間指導計画の年度末の見直し・改善の研修への生徒の参画の意義と効果が明らかになった<sup>31)32)</sup>。

何れも、学校カリキュラム・マネジメントの推進にかかわる児童生徒からの支援の在り方として大きな可能性を秘めており、かつ一般化が可能である。

#### 【引用文献】

- 1) 村川雅弘・久野弘幸・野口徹・三島晃陽・四ヶ所清隆・加藤智・田村学「総合的な学習で育まれる学力とカリキュラムI（小学校編）」、日本生活科・総合的な学習教育学会編『せいかつか&そうごう』第22号、pp.12-21、2015年
- 2) 村川雅弘「探究的な授業づくりと資質・能力の育成」、『リーダーズライブラリ』Vol.2、ぎょうせい、pp.70-73、2018年
- 3) 村川雅弘・石田有記「能力ベースの探究的な授業づくりを中心としたカリキュラム・マネジメント」、村川雅弘・吉富芳正・田村知子・泰山裕編著『教育委員会・学校管理者のためのカリキュラム・マネジメント実現への戦略と実践』ぎょうせい、pp.116-124、2021年
- 4) 村川雅弘「地域を挙げて目指す資質・能力を育む授業づくり」、村川雅弘著『子どもと教師の未来を拓く総合戦略55』教育開発研究所、pp.162-165、2021年

- 5) 渡邊崇・泰山裕「幼・小・中・高 13 年間をつなぐ総合的な学習の時間を要としたカリキュラム・マネジメント」、前掲書 3)、pp.153-160、2021 年
- 6) 村川雅弘「事例に学ぶカリマネ成功 10 の処方」、村川雅弘編集『学力向上・授業改善・学校改革 カリマネ 100 の処方』教育開発研究所、pp.190-198、2018 年
- 7) 村川雅弘「県教育委員会と県立高等学校における感染予防と学習保障の両立～カリキュラム・マネジメントの知見を生かす～」、村川雅弘編著『with コロナ時代の新しい学校づくり 危機から学びを生み出す現場の知恵』ぎょうせい、pp.16-23、2020 年
- 8) 村川雅弘「市教育委員会と中学校区における感染予防と学習保障の両立」、前掲書 7)、pp.24-31、2020 年
- 9) 田村知子「with コロナのカリキュラム・マネジメント」、前掲書 7)、pp.114-121、2020 年
- 10) 田村知子・木原俊行・岡田和子ほか「危機的状況下におけるカリキュラム・マネジメントに対する市町村教育委員会の指導・支援—新型コロナウイルス感染症による長期臨時休業の影響を受けた大阪府における調査—」、『大阪教育大学紀要』第 70 巻、pp.249-268、2022 年
- 11) 泰山裕・小島亜華里「教科書分析による思考スキルを育成する学習場面の検討」、日本教育メディア学会発表、2016 年
- 12) 泰山裕・堀田龍也「各教科で指導可能な情報活用能力とその各教科等相互の関連～平成 29・30 年学習指導要領の分析から～」、『日本教育工学論文誌』第 44 巻第 4 号、pp.547-559、2022 年
- 13) 村川雅弘「地域を挙げて目指す資質・能力を育む授業づくり」、村川雅弘著『子どもと教師の未来を拓く総合戦略 55』教育開発研究所、pp.162-165、2021 年
- 14) 阿部一晴・村川雅弘「CMN (カリキュラム・マネジメント新潟モデル) の開発と実装」、前掲書 3)、pp.104-115、2021 年
- 15) 村川雅弘・石田有記「能力ベースの探究的な授業づくりを中心としたカリキュラム・マネジメント」、前掲書 3)、pp.116-124、2021 年
- 16) 新潟県上越市教育委員会・村川雅弘「学校力を高める視覚的カリキュラム表」、前掲書 3)、pp.143-151、2021 年
- 17) 八釘明美・吉富芳正「地域カリキュラムの先導的実践としての「知多カリ」」、前掲書 3)、pp.169-179、2021 年
- 18) 畑中一良・吉富芳正「小中全校展開 校長・教務・研究主任合同研修から各校へ」、前掲書 3)、pp.134-141、2021 年
- 19) 広島県福山市教育委員会・田村知子「「子ども主体の学び」全教室単会に向けて～子どもの学びに即したカリキュラム・マネジメント」、前掲書 3)、pp.160-168、2021 年
- 20) 渡邊崇・泰山裕「幼・小・中・高 13 年間をつなぐ総合的な学習の時間を要としたカリキュラム・マネジメント」、前掲書 3)、pp.153-160、2021 年
- 21) 村川雅弘「「40 分授業午前 5 時間制」への挑戦—東京都目黒区の区レベルのカリマネ」、『教職研修』教育開発研究所、通巻第 602 号、pp.102-103、2022 年
- 22) 村川雅弘「「40 分授業午前 5 時間制」で生み出した時間の活用～目黒区の区レベルのカリマネ～」、『教職研修』教育開発研究所、通巻第 607 号、pp.102-103、2023 年
- 23) 渡邊諭・石田有記「学校の課題解決に向けてのカリキュラム・マネジメントの推進～生徒の自己有用感を養い、学校満足度を高める小中一貫教育等の推進～」、前掲書 3)、pp.116-124、2021 年
- 24) 濱本かよみ・広島県尾道市教育委員会・田村知子「中学校区で進めるカリキュラム・マネジメント「しまっ子 志プロジェクト」」、前掲書 3)、pp.188-195、2021 年
- 25) 村川雅弘「すべての学校のカリキュラム・マネジメント推進のために教育行政に何ができるか、何をすべきか」、前掲書 3)、pp.10-25、2021 年
- 26) 村川雅弘「児童・生徒とともに進めるカリキュラム・マネジメント」、『教職研修』教育開発研究所、通巻第 592 号、pp.34-35、2021 年
- 27) 村川雅弘「教師と児童によるマクロとミクロの PDCA サイクル」、『教職研修』教育開発研究所、通巻第 597 号、pp.100-101、2022 年
- 28) 村川雅弘「学校改革「三種の神器」とそのモデル校」、『教職研修』教育開発研究所、通巻第 605 号、pp.102-103、2023 年
- 29) 村川雅弘「児童・生徒による授業研究」、『教職研修』教育開発研究所、通巻第 604 号、pp.102-103、2022 年
- 30) 村川雅弘「オンラインで遠隔 2 校を同時研修—熊本大附中の「生徒による授業研究」を生徒と学ぶ」『教育実践ライブラリ』vol.1、ぎょうせい、pp.58-61
- 31) 村川雅弘「さまざまな教育活動の計画・運用に生徒が主体的にかかわる」、『教職研修』教育開発研究所、通巻第 596 号、pp.100-101、2022 年
- 32) 村川雅弘「さまざまな教育活動の見直し・改善に生徒が協働的にかかわる」、『教職研修』教育開発研究所、通巻第 604 号、pp.100-101、2022 年

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計42件（うち査読付論文 5件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 4件）

1. 著者名 田村知子・木原俊行・岡田和子・田中満公子・佃千春・長谷川和弘・餅木哲郎・島田希	4. 巻 70
2. 論文標題 危機的状況下におけるカリキュラム・マネジメントに対する市町村教育委員会の指導・支援 新型コロナウイルス感染症による長期臨時休業の影響を受けた大阪府における調査－	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 大阪教育大学紀要『総合教育科学』	6. 最初と最後の頁 249-268
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.32287/TD00032243	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 田村知子・谷伊織・本間学	4. 巻 70
2. 論文標題 授業づくりへの児童生徒の参加に関する教師の意識 テキストマイニング分析を中心に－	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 大阪教育大学紀要『総合教育科学』	6. 最初と最後の頁 55-64
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.32287/TD00032230	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 泰山裕・堀田龍也	4. 巻 第44巻 4号
2. 論文標題 各教科等で指導可能な情報活用能力とその各教科等相互の関連～平成29・30年改訂学習指導要領の分析から～	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日本教育工学論文誌	6. 最初と最後の頁 547-559
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.15077/jjet.44070	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 泰山裕・稲垣忠・豊田充崇・後藤康志・松本章代	4. 巻 第52号
2. 論文標題 教科の目標に含まれる情報活用能力の要素の検討	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日本教育メディア学会研究会論集	6. 最初と最後の頁 79-82
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 吉富芳正	4. 巻 第1巻
2. 論文標題 カリキュラム・マネジメントと学校支援	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 国立教育政策研究所・令和3年度プロジェクト研究調査研究報告書『学校における教育課程編成の実証的研究報告書5 諸外国の教育課程改革の動向』	6. 最初と最後の頁 64-65
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 村川雅弘	4. 巻 通巻592号
2. 論文標題 児童・生徒とともに進めるカリキュラム・マネジメント	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『教職研修』教育開発研究所	6. 最初と最後の頁 34-35
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉富芳正	4. 巻 第6巻
2. 論文標題 主体的・対話的で深い学びを実現するための副校長・教頭の役割	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『Educasphere』	6. 最初と最後の頁 12-13
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 村川雅弘・野口徹	4. 巻 第28巻
2. 論文標題 中学校の総合的な学習の時間の実施上の課題と対応	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 せいかつか&そうごう(日本生活科・総合的学習教育学会編)	6. 最初と最後の頁 33-40
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 村川雅弘	4. 巻 第1巻
2. 論文標題 新型コロナウイルス感染拡大に伴う休業要請にどう対応したか	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 新教育ライブラリ Premier (ぎょうせい)	6. 最初と最後の頁 80-83
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 村川雅弘	4. 巻 第2巻
2. 論文標題 感染症対策と「学びの保障」の両立をどう実現するか	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 新教育ライブラリ Premier (ぎょうせい)	6. 最初と最後の頁 90-93
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 村川雅弘	4. 巻 第4巻
2. 論文標題 GIGAスクール構想実現のための研修のカリキュラム・マネジメント	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 新教育ライブラリ Premier (ぎょうせい)	6. 最初と最後の頁 80-83
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 村川雅弘	4. 巻 第5巻
2. 論文標題 学校から発信する「新しい生活様式」のモデル	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 新教育ライブラリ Premier (ぎょうせい)	6. 最初と最後の頁 80-83
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉富芳正	4. 巻 第108号
2. 論文標題 新しい時代を拓く子どもたちの主体的な学びの充実を図るカリキュラム・マネジメント 学校段階等間の 接続の視点に立って育む資質・能力	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 教育研究岩手	6. 最初と最後の頁 6-9
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉富芳正	4. 巻 第2巻
2. 論文標題 新しい「社会に開かれた教育課程」の創造 地域を重要なパートナーとして -	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 新教育ライブラリ Premier (ぎょうせい)	6. 最初と最後の頁 60-61
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田村知子	4. 巻 第2巻
2. 論文標題 コロナ休校とカリキュラムマネジメント	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 新教育ライブラリ Premier (ぎょうせい)	6. 最初と最後の頁 28-31
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 村川雅弘	4. 巻 第1巻
2. 論文標題 学校研究の要としての授業研究	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 学校教育・実践ライブラリ	6. 最初と最後の頁 74-77
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 村川雅弘	4. 巻 第2巻
2. 論文標題 目指す資質・能力の育成のための手立ての共有化	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 学校教育・実践ライブラリ	6. 最初と最後の頁 76-79
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 村川雅弘	4. 巻 第3巻
2. 論文標題 「深い学び」づくりの基盤となる教科等のカリマネ	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 学校教育・実践ライブラリ	6. 最初と最後の頁 72-75
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 村川雅弘	4. 巻 第4巻
2. 論文標題 地域を挙げて目指す資質・能力を育む授業づくり	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 学校教育・実践ライブラリ	6. 最初と最後の頁 74-77
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 村川雅弘	4. 巻 第6巻
2. 論文標題 学校を挙げての不断の授業改革による子どもの変容	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 学校教育・実践ライブラリ	6. 最初と最後の頁 74-77
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 村川雅弘	4. 巻 第12巻
2. 論文標題 学校教育を核とした「ふるさと創生」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 学校教育・実践ライブラリ	6. 最初と最後の頁 70-73
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉富芳正	4. 巻 第65巻第6号
2. 論文標題 「対話的な学び」の重要性と学習指導の工夫	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 教育展望	6. 最初と最後の頁 106-111
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉富芳正	4. 巻 第984号
2. 論文標題 教員のカリキュラム・マネジメント力を高める養成と研修	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 初等教育資料	6. 最初と最後の頁 86-89
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田村知子	4. 巻 第52巻
2. 論文標題 新学習指導要領の理念を実現するカリキュラム・マネジメント	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 月刊高校教育	6. 最初と最後の頁 32-35
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 村川雅弘	4. 巻 1
2. 論文標題 新教育課程の実現をどう関連的・総合的に図っていくか	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 リーダーズ・ライブラリ	6. 最初と最後の頁 70-73
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 村川雅弘	4. 巻 2
2. 論文標題 探究的な授業づくりと資質・能力の育成	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 リーダーズ・ライブラリ	6. 最初と最後の頁 70-73
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 村川雅弘	4. 巻 3
2. 論文標題 タテ連携・ヨコ連携の課題を踏まえ、その解決策を考える研修を作る	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 リーダーズ・ライブラリ	6. 最初と最後の頁 70-73
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 村川雅弘	4. 巻 8
2. 論文標題 カリキュラム・マネジメントの研修を考える	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 リーダーズ・ライブラリ	6. 最初と最後の頁 70-73
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉富芳正	4. 巻 10
2. 論文標題 カリキュラム・マネジメントと校長のリーダーシップ	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 リーダーズ・ライブラリ	6. 最初と最後の頁 36-37
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 村川雅弘	4. 巻 11
2. 論文標題 校長のリーダーシップと学校を挙げてのカリキュラム・マネジメント	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 リーダーズ・ライブラリ	6. 最初と最後の頁 52-57
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 村川雅弘	4. 巻 11
2. 論文標題 「地域のカリキュラム・マネジメントの先進的取組に学ぶ	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 リーダーズ・ライブラリ	6. 最初と最後の頁 70-73
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田村知子	4. 巻 771
2. 論文標題 学校力・教師力を向上させるカリキュラム・マネジメント	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 指導と評価	6. 最初と最後の頁 9-10
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 村川雅弘	4. 巻 994
2. 論文標題 現代的な諸課題に対応する資質・能力を育む教科横断的な学びの実現	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 中等教育資料	6. 最初と最後の頁 14-19
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田村知子・本間学・吉富芳正・村川雅弘	4. 巻 第66巻
2. 論文標題 カリキュラムマネジメントの自己評価ツールの開発と検証	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 岐阜大学教育学部研究報告 (人文科学)	6. 最初と最後の頁 221-231
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 村川雅弘	4. 巻 6
2. 論文標題 高等学校のスタートカリキュラムとアクティブ・ラーニング	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 新教育課程ライブラリ	6. 最初と最後の頁 58-61
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 村川雅弘	4. 巻 9
2. 論文標題 移行期の研究課題と研修方法の工夫・改善	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 新教育課程ライブラリ	6. 最初と最後の頁 40-43
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田村知子・本間学・根津朋実・村川雅弘	4. 巻 第26号
2. 論文標題 カリキュラムマネジメントの評価手法の比較検討-評価システムの構築にむけて	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 カリキュラム研究	6. 最初と最後の頁 印刷中
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 村川雅弘	4. 巻 第1巻
2. 論文標題 教科等と実社会とのつながりを生かす資質・能力の育成	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 新教育課程ライブラリ	6. 最初と最後の頁 26-29
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 村川雅弘・八鈿明美	4. 巻 第1巻
2. 論文標題 次期学習指導要領が求める単元・授業づくりモデル	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 新教育課程ライブラリ	6. 最初と最後の頁 66-69
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 村川雅弘	4. 巻 第11巻
2. 論文標題 「社会に開かれた教育課程」における学習活動	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 新教育課程ライブラリ	6. 最初と最後の頁 26-29
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 村川雅弘	4. 巻 第943号
2. 論文標題 小学校におけるカリキュラム・マネジメント	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 初等教育資料	6. 最初と最後の頁 4-9
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉富芳正	4. 巻 第11巻
2. 論文標題 『社会に開かれた教育課程』の意義と条件	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 新教育課程ライブラリ	6. 最初と最後の頁 18-21
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計10件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 村川雅弘
2. 発表標題 「新しい生活様式」の時代の生活科・総合的な学習（探究）の時間～「これからの暮らし」を探究する意義と可能性～（シンポジウム）
3. 学会等名 日本生活科・総合的学習教育学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 田村知子
2. 発表標題 カリキュラムマネジメント再考（シンポジウム）
3. 学会等名 九州教育経営学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 泰山裕
2. 発表標題 思考スキルに対する認識と学力調査結果との関連の検討
3. 学会等名 日本教育工学会2019年秋季全国大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 田村知子
2. 発表標題 実践をつくるカリキュラム・マネジメント-研究を進め学校や教育委員会を支援する立場から-
3. 学会等名 日本カリキュラム学会 第30回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 鎌田明美・村川雅弘
2. 発表標題 鳴門教育大学附属中学校「未来総合科」の現代的意義を考えるー育成された資質・能力とカリキュラム・マネジメントの視点からー
3. 学会等名 日本カリキュラム学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 本間学・根津朋実・村川雅弘・田村知子
2. 発表標題 カリキュラムマネジメント評価の3手法の特性の検証と支援システムの試作
3. 学会等名 日本カリキュラム学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 村川雅弘
2. 発表標題 小・中・高のスタートカリキュラムの意義と具体を考える
3. 学会等名 日本生活科・総合的学習教育学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 本間学・根津朋実・村川雅弘・田村知子
2. 発表標題 カリキュラムマネジメント評価の3手法の妥当性の検証とシステムの試作
3. 学会等名 日本カリキュラム学会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 泰山裕
2. 発表標題 思考スキルの視点による授業設計の影響
3. 学会等名 日本教育工学会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 泰山裕・小島亜華里
2. 発表標題 教科書分析による思考スキルを育成する学習場面の検討
3. 学会等名 日本教育メディア学会
4. 発表年 2016年

〔図書〕 計14件

1. 著者名 村川雅弘	4. 発行年 2021年
2. 出版社 教育開発研究所	5. 総ページ数 195
3. 書名 子どもと教師の未来を拓く 総合戦略55	

1. 著者名 吉富芳正・村川雅弘・田村知子・石塚等・倉見昇一	4. 発行年 2020年
2. 出版社 ぎょうせい	5. 総ページ数 220
3. 書名 これからの教育課程とカリキュラム・マネジメント	

1. 著者名 村川雅弘・吉富芳正・田村知子・泰山裕	4. 発行年 2020年
2. 出版社 ぎょうせい	5. 総ページ数 222
3. 書名 教育委員会・学校管理職のためのカリキュラム・マネジメント実現への戦略と実践	

1. 著者名 村川雅弘	4. 発行年 2020年
2. 出版社 ぎょうせい	5. 総ページ数 162
3. 書名 withコロナ時代の新しい学校づくり 危機から学びを生み出す現場の知恵	

1. 著者名 村川 雅弘	4. 発行年 2018年
2. 出版社 教育開発研究所	5. 総ページ数 200
3. 書名 学力向上・授業改善・学校改革 カリマネ100の処方	

1. 著者名 吉崎 静夫、村川 雅弘、木原 俊行	4. 発行年 2019年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 228
3. 書名 授業研究のフロンティア	

1. 著者名 村川雅弘（吉富芳正編集）	4. 発行年 2017年
2. 出版社 ぎょうせい	5. 総ページ数 239
3. 書名 新教育課程とこれからの研究・研修	

1. 著者名 村川雅弘（田村学編著）	4. 発行年 2017年
2. 出版社 明治図書	5. 総ページ数 170
3. 書名 中学校新学習指導要領の展開 総合的な学習	

1. 著者名 村川雅弘（無藤隆編著）	4. 発行年 2017年
2. 出版社 明治図書	5. 総ページ数 165
3. 書名 中学校新学習指導要領の展開 総則	

1. 著者名 村川雅弘（田村学編著）	4. 発行年 2017年
2. 出版社 ぎょうせい	5. 総ページ数 209
3. 書名 小学校教育課程実践講座 総合的な学習の時間	

1. 著者名 村川雅弘（田村学編著）	4. 発行年 2017年
2. 出版社 ぎょうせい	5. 総ページ数 209
3. 書名 中学校教育課程実践講座 総合的な学習の時間	

1. 著者名 村川雅弘	4. 発行年 2016年
2. 出版社 教育開発研究所	5. 総ページ数 163
3. 書名 ワークショップ型教員研修 はじめの一步	

1. 著者名 田村知子・村川雅弘・吉富芳正・西岡加名恵（編著）	4. 発行年 2016年
2. 出版社 ぎょうせい	5. 総ページ数 203
3. 書名 カリキュラムマネジメント ハンドブック	

1. 著者名 村川雅弘（編著）	4. 発行年 2016年
2. 出版社 ぎょうせい	5. 総ページ数 166
3. 書名 実践！アクティブ・ラーニング研修	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	吉富 芳正  (YOSHITOMI YOSHIMASA)  (60550845)	明星大学・教育学部・教授   (32685)	
研究分担者	田村 知子  (TAMURA TOMOKO)  (90435107)	大阪教育大学・連合教職実践研究科・教授   (14403)	
研究分担者	泰山 裕  (TAIZAN YUU)  (90748899)	鳴門教育大学・大学院学校教育研究科・准教授   (16102)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------